

阿蘇市「探究的な学びの郷づくり」構想



阿蘇市「探究的な学びの郷づくり」構想について1

「探究的な学び」とは？

課題の設定、情報の収集、情報を整理・分析、まとめ・表現といった探究的な学習過程を通して、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのこと。

今の子供たちが、成人して社会で活躍する頃には、我が国は厳しい挑戦の時代となることが予想される。

未来の創り手となる子供たちに求められること

子供たち一人一人が、主体的に学び続けて自ら能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくために必要な力を身に付けること。

予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるような力を身に付けること。

予測困難な時代に未来の創り手となる子供たちに、学校教育は何を準備しなければならないのか？

学校教育に求められること

- ①子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくこと。
- ②様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し、情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと。
- ③複雑な状況変化の中で目的を再構築（修正・再設定）することができるようにすること。

阿蘇市「探究的な学びの郷づくり」構想について2

各教科等では

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に、「探究的な学び」をもとに「学習の主体者としての学び」と「教科等の見方・考え方」を大切にした取組を行う。

特に、探究的な過程としての「課題を見いだす」、「見通しをもつ」、「課題を解決する」（情報の収集、整理・分析）、「まとめ・振り返り」という一連の学習過程の中で、各教科等の「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりして、それを表出するアウトプットを重視した学びの実現を図る。そのために、各学校で育む資質・能力にもとづく各教科等の創意ある単元デザイン、カリキュラムデザインを行う。

総合的な学習の時間では

探究的な学習過程である「課題の設定→情報の収集→情報を整理・分析→まとめ・表現」を通し、各教科等における見方・考え方を総合的に活用して、多様な角度から事象を捉え、各校区・阿蘇市の教育資源を活用しながら、課題を粘り強く探究し、アウトプットを重視した自己の生き方を問い続ける学びを構築する。

阿蘇市「探究的な学びの郷づくり」構想では

これらのことをもとに



各教科等・総合的な学習の時間を核とし、学びの主体者である子供たちに未来を拓く力の中核としての課題解決力を育む、阿蘇市ならでの取組を目指します。

「ふるさと学習」とは・・・

次世代を担う子どもたちが、豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けていくために、阿蘇というフィールドを生かした体験活動は、重要かつ有効な取組である。

様々な阿蘇の環境を生かした体験活動を通して、ふるさとを愛し誇りに思うと同時に、未来へそのすばらしさを守り、伝えていこうとする態度を培う学習である。

(参考) : 「阿蘇市自然体験活動の推進に関する条例」